

主の降誕（夜半ミサ）

2013.12.24 21:00 ミサ

ルカ 2・1-14

今晚、私たちはここに集って、クリスマスを祝うミサに参加しています。このミサにおいて教会が祝っているのは、言うまでもなくキリスト教の信仰の対象である、イエス・キリストの誕生です。けれども、イエス・キリストの誕生を祝うクリスマスの祝いは、今朗読された聖書のことばに注意深く耳を傾けるなら、イエス・キリストを信じるキリスト教の信者のためだけのものではないことが分かるはずです。聖書が語る、羊飼いたちに現れた天使がもたらしたメッセージは今私たちが聴いたとおりです。「私は、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」。ダビデの町とは、イエス・キリストがそこでお生まれになったベツレヘムのことです。しかし、ベツレヘムの町の人々は誰一人として、天使が羊飼いたちに告げたことが自分たちの町の一隅で起きていることを知りませんでした。それにもかかわらず、羊飼いたちがその声を聴いた天使は、ベツレヘムの町のどこかで、民全体に、すなわちそのことに気付かずにいる全ての人にも与えられる大きな喜びの出来事が起きていると告げているのです。クリスマスとはこのような祝いです。天使を通して天から与えられる、全ての人のための大きな喜びのメッセージをそのままに受け入れ、それを喜び祝う祝いの祭りです。

今晚私たちが聴いた、天使が告げている喜びのメッセージは、私たちが生きている現実の世界の歴史の一点において起こった出来事を指し示しています。その出来事の中には、布に包まって飼葉桶の中に寝かされている乳飲み子がいるだけです。このクリスマス夜、私たちは聖書を通して、羊飼いたちが見つけ出したのと同じ一人の乳飲み子の誕生の場に立ち会っているのです。そしてそこに、全ての人のための大きな喜びが天からもたらされていることを、羊飼いたちが聴いたように聴いているのです。

今晚このミサの中で私たちが聴いた聖書が語るクリスマスの出来事は、今もわたしたちの間で起きているように思えます。今晚私たちはここに集って、教会のクリスマスの祝いに参加していますが、聖書に語られているあの夜と全く同じように、町の人々はここでこのようなことが祝われていることに気づいてはいません。そのような現実の中で、暮れも押し詰まった師走の風が吹き抜ける夜の道を急いでここに集った私たちは皆、あの羊飼いたちのようです。

ここに集って私たちが目にしていることと、そこで聴くメッセージの間のあ

まりにも大きな落差に、私たちも、羊飼いたちが味わったであろうような戸惑いを覚えているかもしれません。私たちが目にしているのは、ローソクが灯された祭壇の前に置かれた、聖書が語るあの夜ベツレヘムに生まれた乳飲み子をかたどった人形です。ここに置かれた人形が何を意味しているのかは、わたしたちにも分かります。それは聖書に語られている、羊飼いたちが見たあの乳飲み子を私たちの感覚にも分かるような形で表しているに過ぎません。しかし、本当の問題はその先にあります。今晚このようにして私たちが祝っている、聖書に語られているクリスマスの出来事が、何故、今も私たちに大きな喜びをもたらす出来事であるのかということです。

もう一度聖書に戻って、クリスマスの喜びを告げる天使のメッセージに耳を傾けましょう。「私は民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」クリスマスのメッセージは、天使がその誕生を告げている乳飲み子が私たちにとっての救い主であるということです。ここに、クリスマスの祝いを特徴づける大きな喜びの源があります。クリスマスの夜、ベツレヘムの厩で生まれた乳飲み子は、やがて成長して、私たちの救い主になってくださるというわけではありません。クリスマスのメッセージは、布に包まれて飼い葉桶に寝かされているあの乳飲み子がそのままの姿で私たちの救い主であると告げているのです。

救い主とは文字通り、私たち人間を救うことの出来るお方です。私たちはそれぞれの人生の中で、自分に救いの手を差し伸べてくれた、決して忘れることの出来ない、忘れてはならない人たちに出会ったかもしれません。けれども、本当の意味で、一人の人を完全に救いきることができる者はこの世にはいません。自分の全てを犠牲にして、人のために自分を完全にささげ尽くすことの出来る人は人間の中に見出すことは出来ません。もしそのような人が存在するとするならば、その人は神以外の何ものでもありません。「今日あなた方のために救い主がお生まれになった」と告げるクリスマスの天使は、そのような神の、私たちの現実の世界への誕生を告げているのです。クリスマスの夜ベツレヘムに生まれた乳飲み子が、全ての人を救う救い主であるならば、その方は、人間であると同時に、神が人間となってくださったお方であり、その生涯のあらゆる時点において、私たちの救い主であるはずで、聖書は生まれたばかりのあの乳飲み子を、私たちにとっての救い主として示しています。それならば、その乳飲み子が救い主として私たちに差し出している救いとはどのような救いなのでしょう。

クリスマスの夜、私たちの世界にお生まれになったそのお方は、私たち全ての者がそうであるように、すでに人の手によってがちりと固められているこの現実の世界の向こうからやって来て、この現実の世界の中に誕生されたので

す。そのようにして誕生したいのちは、この現実の世界の中に誕生し、生きはじめたには違いありませんが、この現実が生み出したものでありません。全てのいのちはこの現実の世界の中に生まれ出ますが、クリスマスのあの乳飲み子が指し示しているように、そのいのちそのものは、決してこの現実の世界の生産物の一つに過ぎないのでありません。クリスマスの夜、布に包まれて飼い葉桶に寝かされているあの乳飲み子である私たちの救い主がそのお姿をもって私たちに告げ、私たちを招いているのは、そのような私たち一人ひとりのこの現実の世界を生きるいのちそのものの神秘への目覚めです。その神秘が私たち一人ひとりのいのちを成り立たせ、私たち一人ひとりのかけがえのなさを生み出しているのです。

クリスマスのこの夜、親しい者どうし、あらためてじっくりとお互いの顔を見合わせながら、ともに相手の中に流れるこのいのちの神秘を確かめ合うことが出来る時、何故クリスマスの夜、私たち前に置かれているこの乳飲み子が、そのままの姿で私たち全てのものにとっての救い主であるのかということが私たちにも分かって来ることでしょう。そして、そのことに気付いた私たちを、天使が告げているとおりに大きな喜びで満たしてくれるに違いありません。そのようにして、今晚私たちが祝うクリスマスは、私たちの現実の中にそのような姿で生まれてくださった神の子であるお方が私たちに指し示しておられる、私たち一人ひとりのうちに流れるいのちの神秘を祝う祭りとなることでしょう。私たち一人ひとりが、そして、現実の寒風に吹き悩まされているこの私たち世界が、このクリスマスのメッセージをしっかりと受けためることが出来た時、何故、クリスマスの夜私たちがその誕生を祝う、あの乳飲み子が私たち全ての者にとって救い主であるのかが分かってくることでしょう。その乳飲み子である私たちの救い主に向かって、私たちの心を開く恵みを願って、このクリスマスの祈りに満たされたミサをささげたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高